

DEBUT 首長

大阪府大阪狭山市長 古川 照人氏

子育て世代の支援策を強化 築造1400年の狭山池で誘客



ふるかわ・てるひと 1971年大阪府狭山町（現・大阪狭山市）生まれ。96年近畿大商経学部卒。99年から大阪狭山市議を2期、2007年から大阪府議を2期務める。15年4月大阪狭山市長に無投票で初当選。休日は妻と3人の娘の買い物に付き合うのが楽しみ。

大阪狭山市 大阪府南東部にあり、大阪市中心部から電車で30分強のベッドタウン。人口約5万8000人。市内に日本最古の人工のため池とされる狭山池がある。1987年に狭山町から市に昇格する際、すでに埼玉県狭山市があったため、大阪狭山市とした。条例により、市内にはパチンコ店が一軒もない。

——市の最大の課題は。

少子高齢化が進む中で、市の魅力を高めて定住や他地域からの移住を促していくことが大切だ。大阪市や堺市のベッドタウンとして発展した歴史を踏まえ、住んでいる人やこれから住む人が暮らしやすく、安全で安心な街づくりに力を入れたい。

日本創成会議（座長・増田寛也元総務相）の人口推計によると、市の2040年の人口は約4万7000人と、現在より1万1000人減る見通し。高齢化率は現在の25%から40%へ高まるとみられ、早急に手を打つ必要がある。特に、市の人口の半分を占める狭山ニュータウンの活性化が一番の課題だ。ニュータウン内で子供の声が減っているため、若い世代が入りにくくなり、さらに高齢化が進むという悪循環に陥っている。これを

早く逆回転させなければ、手遅れとなりかねない。

まずは子育て世代を対象に、手厚くサポートしていきたい。妊婦向けタクシーや児童医療費の補助制度を拡充するなど、結婚から出産・子育ての各ステージで切れ目なく支援策を強化する考えだ。

——2023年に市内の近畿大学医学部付属病院が堺市へ移転する。

全面的に移転するのではなく現在の約1000床のうち300床程度は残る計画だ。ただ、（生命に危険が及ぶような重症患者への対応を担う）3次救急の機能がなくなり、地域住民の間に不安の声が出ているのは確かだ。近大病院に代わる総合病院を誘致できないか検討するなど、市民の不安解消に努めたい。狭山ニュータウンには医師や看護師、医学部生など近大関連の住民も多く、こうした人の転居が見込まれるのは痛い。

——インバウンド（訪日外国人）観光が伸びている。

これまで、市ではあまり観光政策に力を入れてこなかった。

しかし、来年は市のシンボルである狭山池が築造1400年の節目を迎える。狭山池は国内最古の人工のため池で、古事記や日本書紀にもその名が登場する。

これを機に、多くのイベントを開いて狭山池をPRし、国内外から観光客を呼び寄せたい。安藤忠雄氏が設計した府立狭山池博物館も見どころの一つだ。高野山と大山古墳（仁徳天皇陵古墳）を結ぶ中間点に位置するだけに、観光ルートにも組み込みやすいのではないかと。

——市内を循環する100円バスは好評だ。

かつては福祉バスと名乗って無料だったが、現在は100円均一の運賃。それでも赤字だが、市民の利便性を考えて運行は継続したい。今年秋には老朽化した車体を更新し、現在の緑色をオレンジ色に変える。狭山池1400年をアピールするラッピングバスも導入する方針だ。

（聞き手は堺支局長

小島 基秀）